

# 三愛 view

発行所：三船病院相談室  
創刊日：2003年8月15日  
〒763-0073  
香川県丸亀市柞原町366  
Tel 0877-23-2341  
Fax 0877-23-2344

## オーダーリングシステム導入後の薬剤師職能のあり方

薬局長 高畑 節子

当院にオーダーリングシステムが導入されて早8ヶ月が経ち、今のところ注射薬以外はオーダー入力可能となっていますが、いずれ注射薬もオーダーできるようになればと考えています。医療における安全性が求められる医療従事者にとって、近年医療事故報道が相次いでいる現状は辛く厳しく感じています。

オーダーリング導入前は日常の調剤業務に追われてしまい、併用禁忌・薬物相互作用の注意等のチェックがなかなかできないこともありました。また変方になっているのにそのまま処方箋が来たり、向精神病薬の中でも一種・二種に分類されているものは最大14日までという規定もあつたりと頭の中で全てを処理・解決するには限度がありました。医師・看護師・本人からの薬の作用や副作用に関する問い合わせも多くありその度に文献を調べていましたが、今回のオーダーリング導入で最大投与量や年齢による投与量の限定、併用禁忌の設定等ができるようになり、入力時点でチェック可能となりました。また入力ミスを防ぐために頭文字の3文字を入力するようにしたことで類似医薬品名称の入力ミスも防ぐ事ができるようになりました。処方歴も画面でチェックする事が可能になったことで、服薬指導に生かされるようになってきています。服薬指導をしている方には以前は手書きの説明書をお渡ししていましたが、現在は効能及び気をつけなければならない副作用等も一緒に打ち出した写真付き説明書(カラー)で服薬指導しています。中には服薬指導を行うたびにその説明書を持っていて説明を聞かれる方もおられます。また、指導をしていない方からも「そんなんが欲しいし、薬の説明もして欲しい。」と言われて服薬指導を始めたこともあります。もちろん外来の方にも同じようにプリントアウトした説明書をお渡ししたり、お薬手帳を持ってこられる方にもお渡ししたりしています。誰でも自分が服薬している薬は気になるのが当然であり全ての方に服薬指導したいと考えていますが、その時の症状に合わせて対応していることと人手不足もありできていないのが現状です。

薬は医師の指示通りに服薬することが大切ですが、

もう良かったからと勝手に服薬しなくなるケースもあり、いかにコンプライアンスを上げるかが課題です。その為にも一包化可能な薬剤はできるだけ一包化して、分包した袋には氏名・服用方法も印字するようにし、自己管理する場合に服薬間違いをしないよう配慮しています。もし服薬し忘れた時はどのようにすればよいかをきちんと指導・説明し理解を得ることも我々薬剤師のすべき事であると考えております。また新薬採用薬剤の案内、その他の薬剤全般についての情報提供や院内医薬品集の作成、注意すべき入力ミスをしやすい薬剤情報の提供などを院内全体に知らせる仕事もあります。

薬剤師だけではご本人の日々の状態は把握できかねます。病棟でのカンファレンスに参加することで医療チームの中の一人であることを再認識し、ご本人にとって不利益なことにならないよう薬剤に関する知識を常に吸収し、それらを活かせるよう努力したいと思っています。





## 南館 新6病棟の紹介

6病棟看護師長 太田 宣宏

新6病棟は男性58名が入院いただけるようになっており、旧男性閉鎖病棟と旧保護室病棟が一体化して成り立っています。スタッフは看護師24名(うち男性15名)、看護助手5名(うち男性2名)の計29名で、保護室がある関係上、保護室の方により多くのサービスを提供できるよう、夜勤は看護師3人体制で対応しています。

一般病室ゾーンは一人あたりのスペースが旧男性閉鎖病棟に比べて広く、吹き抜けやウッドデッキがあり圧迫感が少なくなったように感じます。保護室ゾーンにも同様で、保護室に入院されている方々も日光浴や談話ができるようになってきました。また以前の保護室には格子がありました。現在の新6病棟では割れにくいポリカーボネートを使用した室内空間となりスペースも広く、出入り口のドアは中が見えないようプライバシーに気をつけています。そして保護室にて治療中の方も開放観察を積極的に行い、在保護室期間の短縮に努めています。

これらの構造や配慮のためか不穏に至るケースも全体的に減少し、また程度の軽度化の要因にもなっているようです。それでも急性期の様々な症状の方が入院されているため、時には突発的な行動や予測できない事態が起こることもあります。ワンフロアという構造上、より迅速な対応が求められますが、そのためには日頃の関わりの中で、事故の兆候やサインを見逃さないことが大切になります。

対人関係に不安を抱きやすい精神疾患の方々にも安心感を持っていただけるよう、今後も柔軟な姿勢を

もってサービス提供を行い、看護の質の向上を目指して皆様に満足される病棟になるよう努めていきたいと考えています。

【新6病棟(58床)内訳】

保護室ゾーン (各部屋にトイレあり)					一般 ゾーン
保護室		PICU	個室		
3床	3床	3床	3床	4床	42床

ベッドなし    ベッド付き    床式ベッド付き  
PICU    精神症状と身体症状を併せ持つ方に対応可  
(酸素吸入・吸引装置アウトレット設備)



ナースステーション

### 三船病院医師からのメッセージ...

二つの垣間になる言葉

「それってドクハラではないですか!？」

三船病院医師 藤井 聡

セクシャルハラスメント(セクハラ、性的嫌がらせ)という言葉はすっかり定着した感がありますが、この「一年ドクターハラスメント(ドクハラ)」という言葉に耳にするようになりました。ドクハラとは「医者(ドクター)」と「嫌がらせ、悩ませられること(ハラスメント)」を組み合わせた造語で、患者さん本人に不快感を与えたり、本人の心に傷を残すような医療従事者の言葉・態度・雰囲気などを言っています。私自身、どきつとさせられる言葉であり、胸に手を当て反省もさせられます。医療従事者が本人に対して感情的に怒ったり、悪意をもって応対することは当然に憤るべきですが、われわれが当たり前と思っている何気ない言動や、あるいは本人のためになると思っただけの言動さえも本人を傷つけることがあるように、これをミスマッチドクハラというそうです。問題はそう簡単ではないようです。ドクハラの原因として医療現場における多忙さもあげられますが、やはり今、われわれ医療従事者の意識改革が問われているのではないのでしょうか。ドクハラは、医療従事者と本人を敵対させるための言葉ではなく、互いの信頼関係を構築し、本人主体の医療を実践するためのキーワードであると考えたいものです。



# 部門紹介 三船病院 歯科

歯科医長 岩田 修一

歯科では入院中の方を中心に虫歯、歯周病（歯槽膿漏）、入れ歯・かぶせなどの一般歯科治療を行っています。年に1回は病棟で歯科検診を行い、治療の必要のある方には歯科にて治療を行っています。

今までの歯科治療と言えば早期発見・早期治療が重要と考えられていましたが、最近では早期発見・早期治療よりも予防に重点が置かれています。当歯科においても虫歯と歯周病の予防に心がけており、診療の中で歯磨き指導等を行うこともあります。

虫歯ができてしまったら削って詰め物をすればその直後には治っていますが、それだけでは虫歯がしやすい環境（食事回数、食事内容、フッ素の使用状況など）は変わっていません。予防を重点に考えると、歯磨きで十分に歯垢（歯の汚れ）が取れているかの確認やフッ素塗布が重要です。また、できるだけ削らないようにすることが歯の延命に繋がるので、必要最小限の歯の切削で治療するようにしています。そうすることによって麻酔が必要でなくなる事が多く、痛みが少ない治療にも繋がっていきます。

歯周病の治療でも予防が重要です。進行の進んだ歯周病を完全に治療するのは難しいですが、歯垢を十分除去した状態を保つことができれば、歯周病の進行を穏やかにすることができます。そのためには毎日歯を磨き、自分自身で汚れを取る事ができるようになるのが一番大切なことです。その上で定期的に歯科を受診すれば、磨き残しの多い部分や歯茎の腫れている部分

が確認でき、毎日の自分の歯磨きを効率よく良い磨き方へと変えていくことができると思います。

さらに最近分かってきた事です、歯周病を患ってしまうと心臓病・糖尿病・早産などを発症する危険性が高くなってしまいます。また歯垢が多いと誤嚥性肺炎を引き起こす可能性があります。このように全身的なことを考えてみても、歯周病を予防していくことは大変重要だと思えます。

最近、医科においてインフォームド・コンセントが重要視されていますが、歯科においてももちろん同様です。歯科の治療では、さし歯や入れ歯を入れるときにはどうしてもある程度の治療費が必要となってきます。また同じ虫歯を治療する場合でも何通りかの治療法があります。診療内容としては一般の歯科と同じですが、ご本人の状態によっては治療方法を提示してもすぐに選択できなかつたり、治療に対する理解が難しい場合もあります。そういう点では精神科で歯科診療を行う難しさを感じることもありますが、時にはご家族・看護師等の協力を得てできる限りご本人の要望に沿った形で治療を行うようにしています。

虫歯や歯周病を治療するのはもちろんですが、歯の表面の汚れを綺麗にしたり、普段磨ききれっていない汚れを落とすとしても、口の中はかなりさっぱりとするものです。歯の汚れを落としたいといった要望もかなりあります。何かありましたら歯科へお気軽にお尋ね下さい。お待ちしております。

## 心理士コーナー



### 366日のマーチ

心理室課長 片山 泰生

人には誰にも特別な一日がありますが元プロ野球投手、江川氏の25年前のあの空白の一日は、氏と同年代の私にとっていなるような想いがあります。あの日あの時がなければ・・・と深い傷つきを胸に一生を送る人があれば、それを肥やしとして成長していく人もあります。また時が癒してくれるケースもあります。江川氏の場合は自分で正しく空白の一日を認識したのだと思われまふ。人はなかなか変わらないという前提で申し上げるのですが、逆境に陥った時にその状況を逃れるため、お酒を飲んだり精神に作用する薬を使ったり、ギャンブルをしたり過食になったりすることがあります。ですがこれらは一時的な気休めにすぎません。366日の中のたった一日が今日であり、今日、困っているなら助けを求め、問題が複雑ならシンプルに考えていくことが必要です。12 STEPS of A.A.より 1. We admitted we were powerless over alcohol that our lives had become unmanageable. (私たちはアルコールに対して無力であり、思い通りに生きていけなくなったことを認めた。) 今年は何年でも一日だけ長いこの一年がよき一年になればなあと。ever since.

A.A.メッセージは第2土曜の午後2時からです。

### 【介護老人保健施設 福寿荘】



施設長 小笠原 坦(内科医師)

寒かった冬も終わり春らしくなってきましたが、皆様その後お変わりございませんか。少子高齢化により家庭だけでは困難になった「お年寄りの介護」を国民皆でしようという「介護保険」が浸透してきました。実際的には家に居て介護サービスを受ける居宅型と施設に入る施設型の2種類があります。

施設型には主に生活支援が主体となる特別養護老人ホームと長期の療養が必要な介護療養型医療施設(病院等)とその中間に位置する私達の介護老人保健施設の3つがあります。ちなみに私達「福寿荘」の仕事目標は「良い介護」「適切なりハピリ」「きめ細かい医療対応」です。入所されているのは御近所の方を中心に脳卒中中等身体障害の方が半分、痴呆の方が半分で。私達の予想以上に、皆前向きで明るく生きておられます。私達職員も入所者の方に少しでも「心楽しい毎日」を送っていただくべく努力しています。一度お出かけ下さい。

### 【三愛会コミュニティケアセンター】



「清和荘での P S W 業務」

清和荘管理人 林 康紀

清和荘は福祉ホームと呼ばれる社会復帰施設の一つで、職員は管理人が1名と非常勤医師1名で業務を行っています。管理人の業務は入居者の個別相談援助、関係機関との連携、施設の管理業務の他、毎週一回入居者のミーティング及び希望者を募っての外食や買い物などを行っています。中でも個別相談援助は P S W にとって主要な業務になります。特に多い相談は経済的なことと対人関係に関することです。経済的な相談については、福祉ホームの入居者は自活しているので生活上のことはあまりなく、金銭管理や生活費のやりくりなどが主な内容です。対人関係の相談では共同生活の場であるので、些細なことで口論となったりすることがありその都度相談にのっています。相談を受ける際に私が重点を置いている部分は人と人との「関係性」です。入居者と管理人の関係性、そして入居者同士の関係性がどうあるものなのかを考えながら接しています。したがって面接の場面や日常の会話においても言葉遣いや態度、話の聴き方など意識して関わるといふことの大切さを日々感じています。関係性について正しい関係、誤った関係といった答えはないのかもしれませんが、常に自己を振り返り反省することができるのも他者との「関係性」があってこそ可能ではないかと考えています。

#### 三船病院からのお知らせ

##### 【行事予定】

・5月9日(日)

三船病院家族会

2年ぶりに三船病院家族会を開催する予定です。ご家族の皆様のお越しを心よりお待ちしております。

##### 【委員会】

- ・医療事故防止委員会(第2水曜日)
- ・院内感染対策委員会(第3金曜日)
- ・褥瘡対策委員会(第4水曜日)
- ・身体拘束廃止委員会(第4金曜日)



#### <三船病院相談室の活動報告>

- ・12/13(土)第2回家族教室。生活訓練施設花園荘山田施設長「町で生活するために」
- ・1/10(土)第9回相談室セミナー。多度津町役場福祉保健課保健師高島氏「市町村における精神保健福祉サービス」入院中の方32名が参加。
- ・10月~12月グループワーク「社会復帰に向けて」社会復帰施設・グループホームの見学と話し合いを行い、1月~2月作業所・地域生活支援センターの見学を実施。

##### 編集後記

桜のつぼみも膨らみようやく春めいてまいりましたが、皆様いかがお過ごしでしょうか。病院 P S W として情報提供サービスを行っていますが、家族教室ではご家族が抱える苦しい思いを語る場面もありました。全家連では保護者制度に対して異議を唱え続けてきており、家族が責任を背負ってきた精神保健の歴史を感じます。相談援助を行う上で様々な問題がありますが今後も常に当事者主体の支援を行えるよう取り組んでいきたいと思ひます。  
(相談室 P S W)